



No.88 中華民族の偉大な復興



(日経ビジネス/新華社)

第20回共産党大会が終了し3期目の習近平体制が固まりました。マスコミはしつこく「異例の」と報じていましたが、この権力構造の変化がどの程度のものなのか測りかねているようです。たぶんはっきりしているのは、あらゆるレベルで分断が進む世界情勢の中、中国は軍事力と警察力によって統一と秩序を実現しようとしてでしょう。10年前ウルムチや西安を訪れた時は共産党員の人と忌憚ない議論をかわすことができました。数年前まで中国中央テレビCCTVは活気あふれる中国の姿を生き生きと伝えていて、深圳であれ上海であれ、日本にないエネルギーを強烈に感じさせていました。

今のCCTVは人民服姿の毛沢東万歳を叫ぶかつての映像と全く変わりありません。わずか数年でこんなにも変わるものかと驚くほどです。

繰り返し聞こえてくる「中華民族の偉大な復興」のスローガン。確かに中華民族は1644年に明が滅ぼされて以来満州族に支配され、辯髪を強要されてきました。中国の版図は衛青や霍去病が活躍した漢民族の時代よりも、モンゴル族支配下の元、満洲族支配下の清の時代の方がはるかに大きかった。中華民族は必ずしも匈奴、柔然、契丹、韃靼、蒙古、回鶻、吐蕃などの異民族を支配下に置いたわけではありませんでした。



谷口博文の政策イノベーション

Date :2022年10月27日

しかし今やウイグル、チベット、内モンゴル、満州、南方の多くの民族の自治区を版図に加え、中華民族が東夷西戎北狄南蛮を支配する国となりました。それを正面から「中華民族の偉大な復興」と言い、さらにストレートに言えば世界征服の「夢」を語っていること自体、すさまじいことです。

第二次世界大戦以来の国際秩序はいま崩壊中です。目先の話だけではなく、今は歴史的文脈の中で自分たちの身の置きどころを考える時だと思います。